

野田九条通信

2015年10月118号

野田・九条の会 事務局
Tel: 7122-0502



野田 九条の会

検索

「戦争法」廃止！安倍政権は廃棄！！

そして... 7.1 アベ・クーデタ **戦争戦争** 安保法成立 **ぬかった主権者**

安保法を成立させてしまいたい、安倍政権の「閣議決定」について主権者は危機的に捉えていたかを振り返ってみよう。

安倍政権は昨年7月1日集会的自衛権を容認し、年末には秘匿していた安保法案を通すため衆院選を仕掛け、成立期間の確実な確保を目論んだ。

選挙戦では「この道しかない」と景気対策一本で安保論議を封印し、国民を欺くこの政権の危険性に気づかぬ自公支持者と多数の無党派層の棄権で巨大与党を再び登壇させてしまった。この衆院選が安保法案を独善的振舞で成立させる分岐点となった。

政権の思惑はピタリとはまわり、法的安定性は無視され、7.1アベ・クーデタは成功、安保法成立でぬかった主権者はこれから廃止にむけた長い戦いを覚悟せざるをえなくなった。

さてこれからだ。立憲主義と日本国憲法こそが国民一人ひとりの安全を守り、世界平和に貢献する。主権者が違憲立法を覆す最初の目標は九ヶ月後の参院選だ。心して取組もう。

今月の予定

10月9日(金) 17:00~18:00
9の日行動 安保法反対アピール
川間、七光台、清水公園
愛宕、梅郷各駅に集合 野田・九条の会

10月10日(土) 14:00~17:00
野田・九条の会定例会
中央公民館講座室 野田九条の会

10月11日(日) 13:30~16:30
DVD上映会 & 意見交換
「9条を抱きしめて~元米海兵隊員が語る戦争と平和~」
武智多恵子さんの台湾引き上げ体験を聞く
南部梅郷公民館 南地域九条の会

10月30日(金) 13:30~
DVD上映と懇談
「“駅の子”たちの戦い~語り始めた戦争孤児~」
櫛のホール研修室 子どもの未来を語る会

九条の眼

安保法が成立してしまった。廃案を求めてきた私たちの行動は無に帰ってしまったのか。会員3人に現在の思いを寄せていただいた。

私たちは屈しない

川間九条の会 吉田 妙子

安保法が成立した。だが私たちは屈しない。70年間戦争をしない国として歩んで来た歴史を、誇りを持って次の世代に引き継ぐ為に。

憲法が蹂躪されている。政府は言う、「外国から攻撃されない為、戦争を抑止する為、国民の命を守る為の法だ」と。だがいま国の存立を、国民の生命を脅かしている相手は外ではなく内にいるのではないか。立憲主義、民主主義が破壊されるなら、その先にあるのは法治国家の崩壊であり、平和の崩壊だ。歯止めのない権力は更に暴走するものなのだ。

私たちは考えよう。権力者にとって一人ひとりが考えることは恐れだから。権力者は「国」と言う。しかし国という囲いはそこに生きる人々、命を見えなくする。権力者は時に真実を隠し、不安を煽り、その不安を口実に戦争すら起こすのだ。だから私たちは国ではなく人を、そこに生きる私たちと同じ「個人」を見よう。そして固い決意をもって繋がり、国と国の枠を超えて会話していこう。

いま若者たちが声を上げている。多くの人々が絶え間なく声を上げている。「選挙に行こう、現政府にノーを示そう、自分たちの未来は自分たちで決めるのだ」と。

私たちは屈しない。私たちこそ主権者なのだから。

野田・九条の会ホームページ注目

毎月の九条通信のほか、外部のデモや集会の告知、事務局からの緊急の伝言など、役立つ情報満載です。

「野田 九条の会」で検索するとトップに出てきます。ぜひ活用してください。

野田 九条の会

検索

「戦争法案」が強行採決された今 言わねばならないこと！

南地域九条の会 高崎 久男

「安保法案」の強行採決を巡る国会中継を見ながら私は激しい中毒症状に襲われた。その原因は明らかだ。誠心誠意を込め反対質疑をする野党議員に対し、多数の民意を無視し、恥じらいもなく時に薄ら笑いを浮かべながらまやかしの答弁を繰り返す安倍首相、中谷・岸田両大臣、魂を売り渡した横畑法制局長官、傲慢不遜な表情を浮かべる麻生副首相等々、最も醜悪な毒を浴びせ続けられたのだからたまらない。

一方で、連日連夜国会を取り囲み、シュプレヒコールで怒りの声を上げ続けた人々がいることは救いであった。杖をついた老夫婦からシニア、ミドル、ヤングの世代、そして赤ん坊を抱っこしたママさんたち。とりわけ注目を浴びたのは「シールド」を中心とした若者たちが立ち上がったことだ。そのスperl “SEALDs” に似た発音で “shield” という英単語がある。それは「盾」を意味する。だとすれば、シールドは“アベならずもの集団”が立憲主義・民主主義・言論の自由等を奪おうとする暴挙から民衆を守ろうとする勇敢な“盾”になる。そしてこれらの力強いシュプレヒコールの叫びは燎原の火のごとく全国に拡がっている。その‘火’がかつての安

保闘争の時と違って、やがてくすぶり消えていくものでなく、“文化”として根づく兆しは、強行採決の直後から合言葉のように「これで終わりではなく、新たな闘いの始まりだ」と切替わった点から見られる。絶望ではなく、希望の灯なのだ！

私たちは人間性の欠けらもない“アベ・ブラック国家”に私たちの魂が凌辱されることに耐えられない。沖縄、福島の人・在日コリアン等のマイノリティが理不尽に踏みつけられることに耐えられない。この“アベ暴政”に対して、血を流す兵器ではなく、豊かな言葉に充ちた知性を武器として、戦争法案廃止に向けて闘い続けて行こうではありませんか！！



民意も学識も無視した 米軍追従政権なんて要らない

伊藤 進

9月19日未明、安倍政権は戦争法案の採決を強行し、可決成立させました。

昨年末の解散総選挙で国会の多数を占めたと言っても、比例区で自民党に投票したのはたったの17%でした。対して法案そのものへの反対が6割、今国会での成立に反対が7割、説明不十分が8割。この圧倒的な世論をかえりみない採決強行は、国民主権と民主主義を乱暴に踏みつけるものです。

戦争法は成立しましたが、たたかいを通じて国民一人ひとりが主権者として自主的自発的に声をあげ立ちあがるという、これまでにない新しい国民運動が広がりました。とりわけ若者たちがそのなかで素晴らしい役割を發揮していることは日本の未来にとって大きな希望です。

国民の声に応じて野党が結束して法案成立阻止のためにたたかったことも大きな意義があります。圧倒的多数の憲法学者、弁護士が「憲法違反」であると、「法の番人」と言われる歴代の内閣法制局長官も、「憲法の番人」たる最高裁判所の元長官も「憲法違反」と断じました。衆院憲法審査会で憲法学者3人がそろって「違憲」と表明したことがたたかいの広がり契機となりました。

こんなに憲法違反が明白な戦争法をなぜ強行したのでしょうか。それは憲法よりも日米同盟を優先し米国といっしょに戦争をするという約束を果たすためです。昨年12月訪米した自衛隊統合幕僚長は、米軍幹部との会談のなかで「安保法制は予定どおり進んでいるか」と問われ、「来年夏までには終了する」とまで言っていたのです。

災害から人の命を救ってきた自衛隊を、海外で人を殺し殺される軍隊にしてはなりません。戦争法廃止、安倍政権打倒のたたかいを更に広げましょう。